

「干支（えと）」の話し

「干支（えと）」は、一般に「十二支（じゅうにし）」と混同されて使われているようですが、正しくは「五行」、「十干」、「十二支」の漢字の組み合わせで構成されたもので、「きのえね」、「きのとうし」「ひのえうま」などのように呼ばれて、年をあらわすのに使われています。

ちなみに、今年（平成29年）は「丁酉（ひのととり）」の歳です。十干の四番目の「丁」と十二支の十番目の「酉」の組み合わせの「干支」です。

「五行（ごぎょう）」とは、古代の人々が万物を構成していると考えた「木（もく）」、「火（か）」、「土（ど）」、「金（きん）」、「水（すい）」の五つの元素の総称です。

「十干（じっかん）」とは、「甲（こう）・乙（おつ）・丙（へい）・丁（てい）・戊（ぼ）・己（き）・庚（こう）・辛（しん）・壬（じん）・癸（き）」の総称で、

上の「五行」をそれぞれ、兄（え）と、弟（と）に分けたものとされています。

すなわち、まず「五行」の最初の「木」を、兄（え）に「甲」、弟（と）に「乙」を配して、それぞれ「甲」を、木（き）の兄（え）すなわち「きのえ」、「乙」を、木（き）の弟（と）すなわち「きのと」、と呼んでいます。

これを順に繰り返して

- ・「丙」は、「火（ひ）」の兄（え）、すなわち・・・「ひのえ」
- ・「丁」は、「火（ひ）」の弟（と）、すなわち・・・「ひのと」
- ・「戊」は、「土（つち）」の兄（え）、すなわち・・・「つちのえ」
- ・「己」は、「土（つち）」の弟（と）、すなわち・・・「つちのと」
- ・「庚」は、「金（か）」の兄（え）、すなわち・・・「かのえ」
- ・「辛」は、「金（か）」の弟（と）、すなわち・・・「かのと」
- ・「壬」は、「水（みず）」の兄（え）、すなわち・・・「みずのえ」
- ・「癸」は、「水（みず）」の弟（と）、すなわち・・・「みずのと」

のように、組み合わせられ、呼ばれています。

「十二支（じゅうにし）」は、「子（ね）、丑（うし）、寅（とら）、卯（う）、辰（たつ）、巳（み）、午（うま）、未（ひつじ）、申（さる）、酉（とり）、戌（いぬ）、亥（い）」のことで、年、時刻、方角等を表わすのに使われています。

「干支（えと）」は、「十干」に「十二支」をひとつずつ順次組み合わせたものです。今年「丁酉の歳」というように、これで年をあらわしています。

その組み合わせを、まとめてみました。

・	十干	十二支	干支（えと）
1	甲（きのえ）	子（ね）	甲子（きのえ・ね）
2	乙（きのと）	丑（うし）	乙丑（きのと・うし）
3	丙（ひのえ）	寅（とら）	丙寅（ひのえ・とら）
4	丁（ひのと）	卯（う）	丁卯（ひのと・う）
5	戊（つちのえ）	辰（たつ）	戊辰（つちのえ・たつ）
6	己（つちのと）	巳（み）	己巳（つちのと・み）
7	庚（かのえ）	午（うま）	庚午（かのえ・うま）
8	辛（かのと）	未（ひつじ）	辛未（かのと・ひつじ）
9	壬（みずのえ）	申（さる）	壬申（みずのえ・さる）
10	癸（みずのと）	酉（とり）	癸酉（みずのと・とり）

これで「十干」はひとまわりしたので、またもとの「甲」にもどります。

11	甲（きのえ）	戌（いぬ）	甲戌（きのえ・いぬ）
12	乙（きのと）	亥（い）	乙亥（きのと・い）

これで「十二支」がひとまわりしたので、またもとの「子」にもどります。

13	丙（ひのえ）	子（ね）	丙子（ひのえ・ね）
14	丁（ひのと）	丑（うし）	丁丑（ひのと・うし）
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
58	辛（かのと）	酉（とり）	辛酉（かのと・とり）
59	壬（みずのえ）	戌（いぬ）	壬戌（みずのえ・いぬ）
60	癸（みずのと）	亥（い）	癸亥（みずのと・い）

と続き、「十干」と「十二支」でちょうど「60」の組み合わせが出来ます。

61番目以降は、もとの「甲子」にもどります。

60歳のことを、「還暦」というのは、ここからきているということです。

また、野球の「甲子園球場」は、甲子（きのえね）の年（大正13年、1924年）に完成したので、その名がつけられたそうです。

他にも、「戊辰の役」とか、「丙午の年に生れた女の子は・・・」という迷信も、干支によるものです。